

テストホン 2R の使い方

東名通信工業株式会社

概要

このたびは、弊社製品をお買上げいただき、誠に有難うございます。

この試験器は、回線開通試験や回線故障時の出合試験など、各種の打合せに使用するものです。小形軽量のハンズフリータイプで、作業者は両手が自由に使えるため、とくに移動を伴う高所作業やマンホール作業を安全且つ効率的に行うことができます。

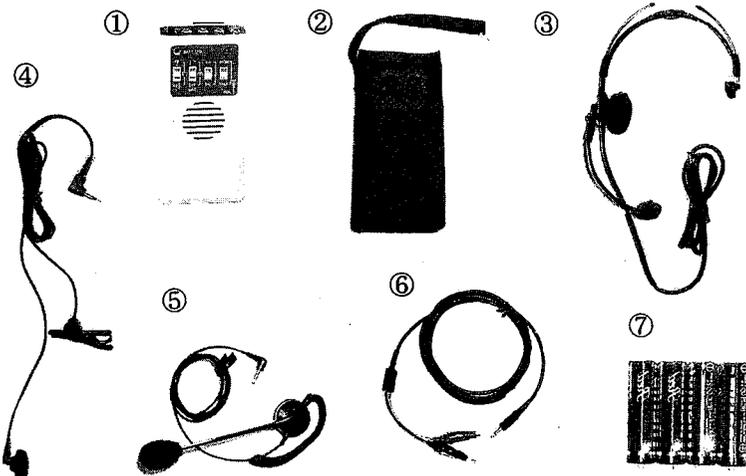
また発振器を内蔵しており、800ヘルツの連続音もしくは断続音を送り出せるので線路損失の概略確認ができます。そのほか、ケーブルの心線対照をきわめて簡便に実施することができます。

なお、テストホン2Rは、環境対策のRoHS指令に適合し、緊急連絡装置として必要な外部DC電源（オプション）にも対応しました。

標準構成品は次のとおりとなっておりますので、お確かめ下さい。

品名	数量
テストホン2R 本体 ①	1
ケース ②	1
送受器（ヘッドセット③又はタイピンセット④ またはイヤークリップセット⑤）	1
クリップコード ⑥	2
単3 乾電池 ⑦	4

○印は写真の番号です



■各部の名称及び説明

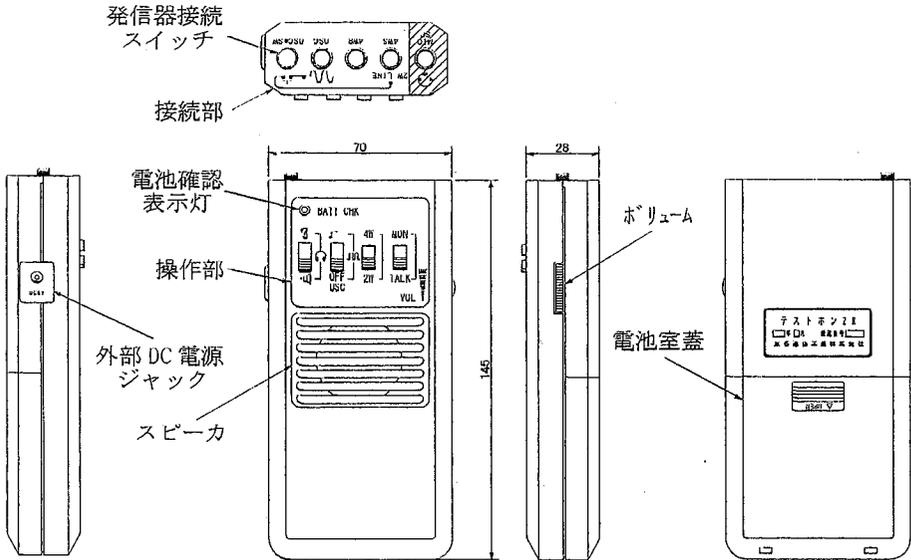
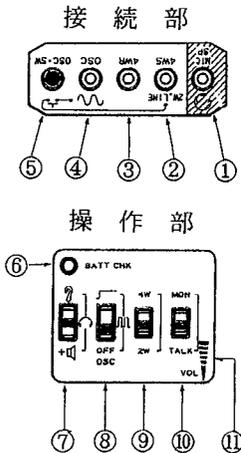


図-2



- ①送受器（ヘッドセット・タイピンセット）のプラグを差し込むジャックです。
 - ②2線式、又は4線式のSのプラグを差し込むジャックです。
 - ③4線式のRのプラグを差し込むジャックです。
 - ④発振器（OSC）の専用出力ジャックです。
 - ⑤2線式、又は4線式のSの通話線に発振器の信号を出力する押しボタンスイッチです。
 - ⑥電源オンの時、電源電圧が正常であれば1.5秒間点灯し使える状態を示します。
 - ⑦拡声通話と送受器の切替えをします。
 - ⑧発振器（OSC）の連続、断続の切替えをします。
 - ⑨通話線の2線式と4線式を切替えます。
 - ⑩通常はTALKとし、呼び出しの受けの時は、MONにします。
 - ⑪側面のボリュームにて音量を調節します。
- ★②～④のジャックは、電源スイッチを兼ねています。

■電池の入れ方

裏面の電池室蓋の OPEN 部を親指で軽く押しながら、▼印の方向にスライドさせると蓋が開きます。電池室の⊕⊖表示に合わせて電池を入れ、蓋をして下さい。

■電源の ON. OFF

接続部 2W、4WS、4WR、OSC のいずれかに、コードのプラグを挿入すると電源は ON となります。電源が正常な場合は、BATT. CHK ランプが 1.5 秒間点灯します。ランプはすぐ消えますが電源は ON となっています。

なお、ランプが点灯しない場合は電池を取り替えるか、オプションの外部電源を使用してください。

電池の寿命は、通常の使用で 100 時間程度です。

また、2W、4WS、4WR、OSC の全てのプラグを抜くと電源は OFF となります。

■送受器の取り付け方

送受器のプラグは、接続部の MIC SP に挿入して下さい。

■MON スイッチの切替忘れ防止

相手からの呼出し待ちの場合 TALK 状態でも MIC SP のプラグを抜けば、自動的に MON に切り替わります。

■携帯方法

試験器は腰のベルトに簡単に取り付けられますが、作業服のポケットに入れることもできます。

■2W 打合に使う場合

使用例はすべてヘッドセット形送受器を使用したもので、例示してありません。

図-3

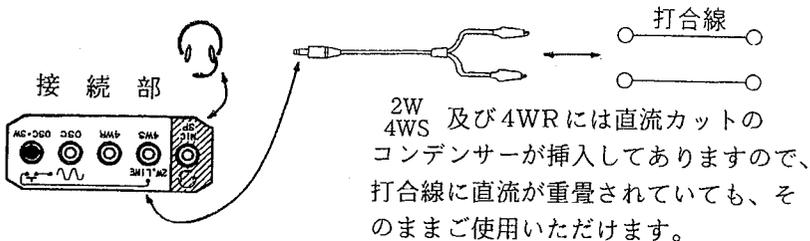
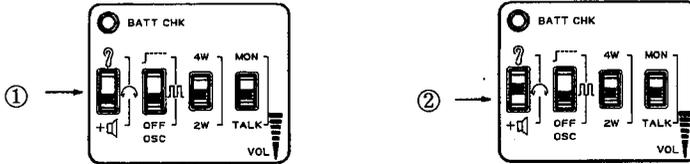


図-4

操作部



- ① 操作部のスイッチを①のように +Q 側にすると、拡声通話ができます。
ハウリングをおこす場合は、ボリュームで調整して下さい。
- ② 操作部のスイッチを②のようにすると送受器のみの通話となります。
受話音量は、ボリュームで調整して下さい。
- ・送受器の切替……

ヘッドセット使用のときは	🎧 側
タイピンセット使用のときは	? 側

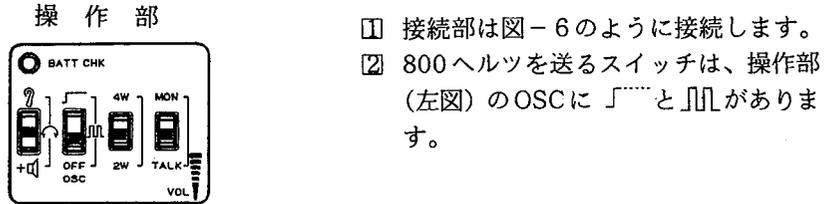
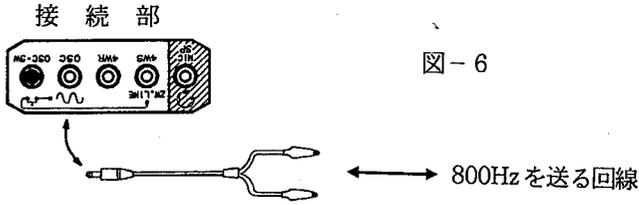
■ 2W 打合線に 800 ヘルツを送る方法

図-5



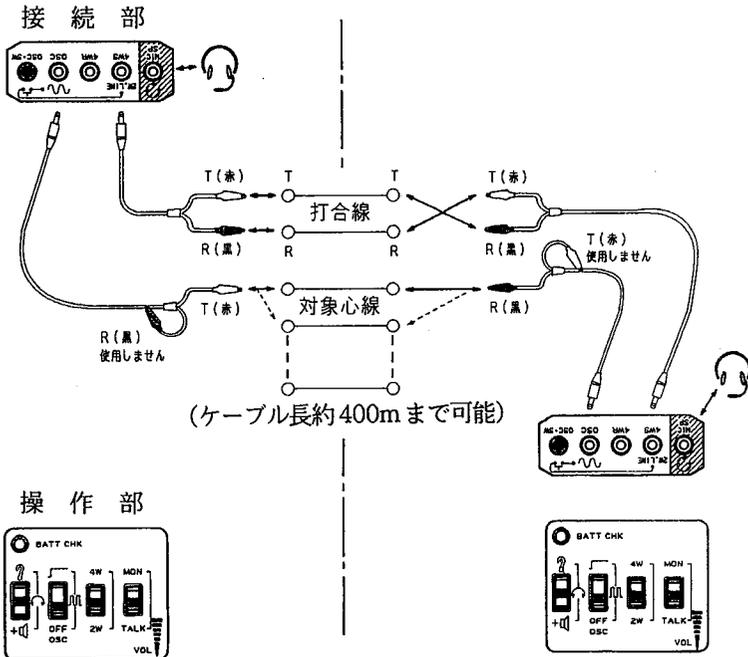
- ① 操作部のスイッチの位置は図-5のとおりで、OSCスイッチ以外は2W打合の場合と同様です。
- ② OSCスイッチの位置
 - 「.....」のときは連続音
 - 「」にすると断続音となり、キャリアなどとの識別ができ便利です。
- ③ 接続部の OSC・SW (黒色ボタン) を押しして下さい。押ししている間だけ800ヘルツ信号が送出されます。
- ④ 周囲の騒音がはげしいときに、800ヘルツを呼出信号として使えば便利です。
- ⑤ 回線の末端に出動の際、出合試験を行いながらその回線に800ヘルツを送り、親局でレベル測定を行えば、線路損失の概略値を知ることができます。

■打合線とは別の回線に800ヘルツを送る方法



■ケーブルの心線対照に使う場合

図-7 送側 受側



□ 送側、受側の接続および操作部のスイッチ位置は図-7のとおりです。

ここで特に注意していただくことは次の3点です。

- ・ 受側のみ、接続部 2W からクリップコードと打合線のT、R（チップ・リング）を逆に接続して下さい。
- ・ 心線対照用コードは送側T（赤）、受側はR（黒）でご使用下さい。
- ・ OSCスイッチは送側のみONにします。

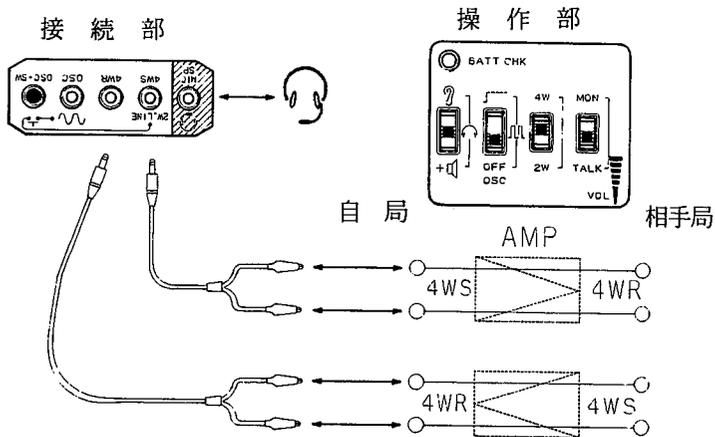
以上が完了すれば打合線の通話が可能になります。

□ 対象心線が接続されれば800ヘルツ音（この例では連続音）が送側・受側両方の受話器に入ります。

図の<--->印のように順次線番をずらしながら心線対照を行って下さい。

■ 4W 打合に使う場合

図-8



□ 接続部、操作部は図-8のとおりです。自局と相手局ではS、Rが逆になりますのでご注意ください。

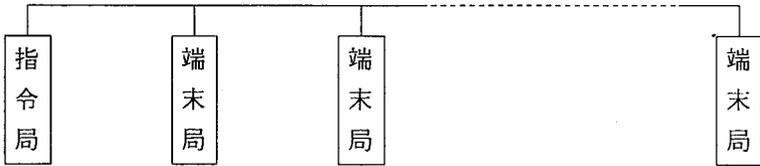
□ 800ヘルツの送り方は、2Wの場合と同様です。

■ テストホン2R とテストホンとを対向で使う場合

□ 対向で使用することができます。

★テストホン2R の音量が小さい場合は、①から②側に切り替えて下さい。

■一斉指令等、複数端末を接続する場合



- ① 一斉指令の際、接続部の接続及び操作部のスイッチ位置。
指令局は「2W 打合に使う場合」と同様です。
各端末局は、スイッチをMON側にして下さい。
- ② 端末局から状況報告を行う際には、その端末局のみTALK側に切り替えて、指令局とお話し下さい。この場合、ヘッドセットのスイッチを + \square 側に切替えると、相手の話しを本体スピーカから聞くことができます。
- ③ 端末数を増やし過ぎると声が小さくなってしまいます。
標準的な台数は表のとおりです。

局内、構内等全長が1Km未満	15台(10台)程度	()は両端を拡声で使用する場合
全長が3Km程度	5台(3台)程度	

「参考」

線路損失+挿入損失 < 15 dBで明瞭な通話ができます。

2W MON時のインピーダンス……3k Ω 程度 (挿入損失0.8 dB)

■現用回線のモニタ

- ① 必ず4W MONで行って下さい。
- ② 接続部のコードを4WRに挿入し、操作部のスイッチを4W及びMONに入れてご使用下さい。
- ③ 4W MON時のインピーダンスは10k Ω 以上で挿入損失は0.3 dB以内ですから現用回線には影響を与えません。

■電気的特性

2線式時のインピーダンス	600 ± 120 Ω
増幅器の利得 (MON)	40dB 以上
最大出力	23dBm 以上
4WR (MON) 時の入力インピーダンス	10k Ω 以上
但し、以上の測定周波数は 0.8kHz とする。	
増幅器の無信号時電流 (MON)	7mA 以下 (OSC OFF)
発振周波数	800 ± 80Hz
発振出力レベル	- 8 ± 2dBm
使用電池	SUM - 3 (1.5V) 4本

■取扱い上の注意

- ① 落としたり、固い物にぶつけてこわすことがありますので、本体はなるべくケースに入れたままお使い下さい。
- ② 屋外等でご使用の際は、必ず予備電池を携行して下さい。
- ③ 高温、多湿の所へ保管したり、長時間放置することは避けて下さい。車の中は高温になることがあります。
この試験器の使用温度は - 10 ~ + 50 °C、湿度は 20 ~ 90 % です。
- ④ 本体の汚れおとしに、シンナーやアルコールなどの溶剤は使用しないで下さい。
- ⑤ 仕様は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

■販売及び故障修理のお問合せ

〒 101 - 0033

東京都千代田区神田岩本町 1 番地 峯岸ビル 7 階

東名通信工業株式会社 東京営業所

営業窓口

TEL.03 - 3253 - 7655 (直通)

FAX.03 - 3253 - 7656

■別売製品のご紹介

構成品のほか、便利に使っていただける別売製品を販売しております。

品 名	記 事
タイピンセット ①	送 受 器
ヘッドセット ②	〃
イヤークリップセット ③	〃
クリップコード ④	プラグは赤色と黒色があります。
DC 電源アダプタ ⑤	外部電源

○内数字は写真の番号です。

